

2018 9/19

基準地価 27年ぶりに上昇

全国平均 訪日客効果広がる

国土交通省が18日発表した2018年7月1日時点の基準地価(3面きょうのことば)は、前年比で27年ぶりの上昇に転じた。訪日客需要を見込む店舗やホテルの建設が進み、地方の中核都市がけん引役となって商業地が3年連続でプラス。住宅地は下落だがマイナス幅は縮んだ。バブル崩壊以降、地価はマイナス圏

住宅地は下落幅が縮小している

(単位%)	全用途	住宅地	商業地
全国	0.1 (▲0.3)	▲0.3 (▲0.6)	1.1 (0.5)
三大都市圏	1.7 (1.2)	0.7 (0.4)	4.2 (3.5)
地方圏	▲0.6 (▲0.9)	▲0.8 (▲1.0)	▲0.1 (▲0.6)
中核4市	5.8 (4.6)	3.9 (2.8)	9.2 (7.9)

(注)前年比変動率。カッコ内は前年、▲は下落。中核4市は札幌、仙台、広島、福岡

で推移してきたが、資産デフレ解消に向けて緩やかに前進している。(関

全国の林地を除いた宅地(全用途)は前年に比べて0.1%上昇で、1991年以来のプラス。同年は全用途で3.1%上昇したが、東京圏や大阪圏の住宅・商業地がマイナスに転じバブル崩壊の起点となった。内閣府によると、地価総額を示す土地資産額は16年で1182兆円。90年の2477兆円をピー

クにバブル崩壊で減少が続いたが、足元は3年連続で上昇。景気回復に寄与している。地価上昇の大きな要因は増えている訪日客だ。恩恵を受ける店舗やホテルなどの立つ商業地は全体で1.1%の上昇。訪日客の人气が高い地方中核4市(札幌、仙台、広島、福岡)は9.2%と

伸びた。都道府県別では北海道と富山が上昇に転じ、上昇は19となった。上昇率上位の地点をみると、北海道のニセコ地区など訪日客が多く訪れる場所が名を連ねた。

地価が最も高かったのは東京・銀座2丁目の「明治屋銀座ビル」。1平方メートルあたり前年比7.7%上昇の4190万円。91年の3800万円を2年連続で超えた。住宅地は0.3%のマイナスで27年連続下落したが、下落幅は9年連続で縮小。低水準のローン金利を背景に、交通の利便性が高い地域中心に上昇の地点は広がった。上昇した都府県は前年の8から11に増加。新潟市や高松市は下落からプラスに転じた。ただ住宅地で全国1万4634地点のうち約55%が下落した。

あなたの身近にいつも...

Achilles
アキレス株式会社

シューズ
プラスチック
産業資材
www.achilles.jp